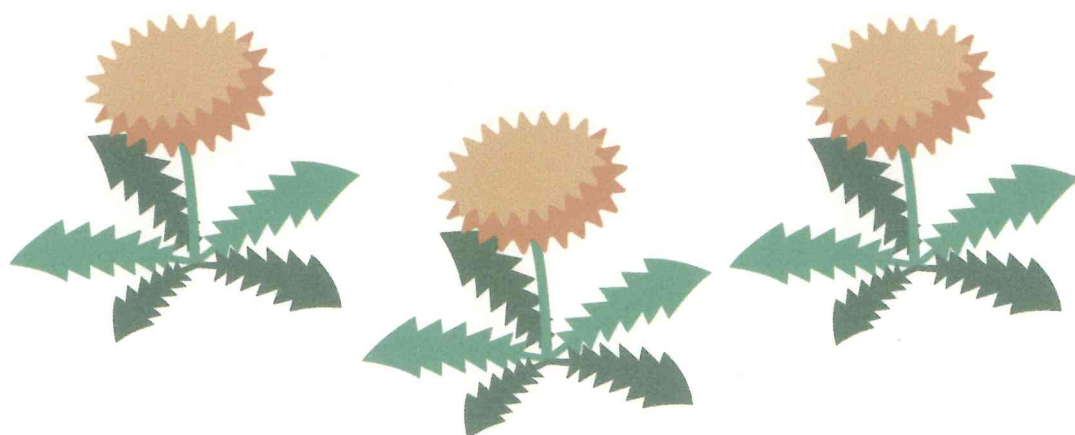


平成28年度

授業改善推進プラン



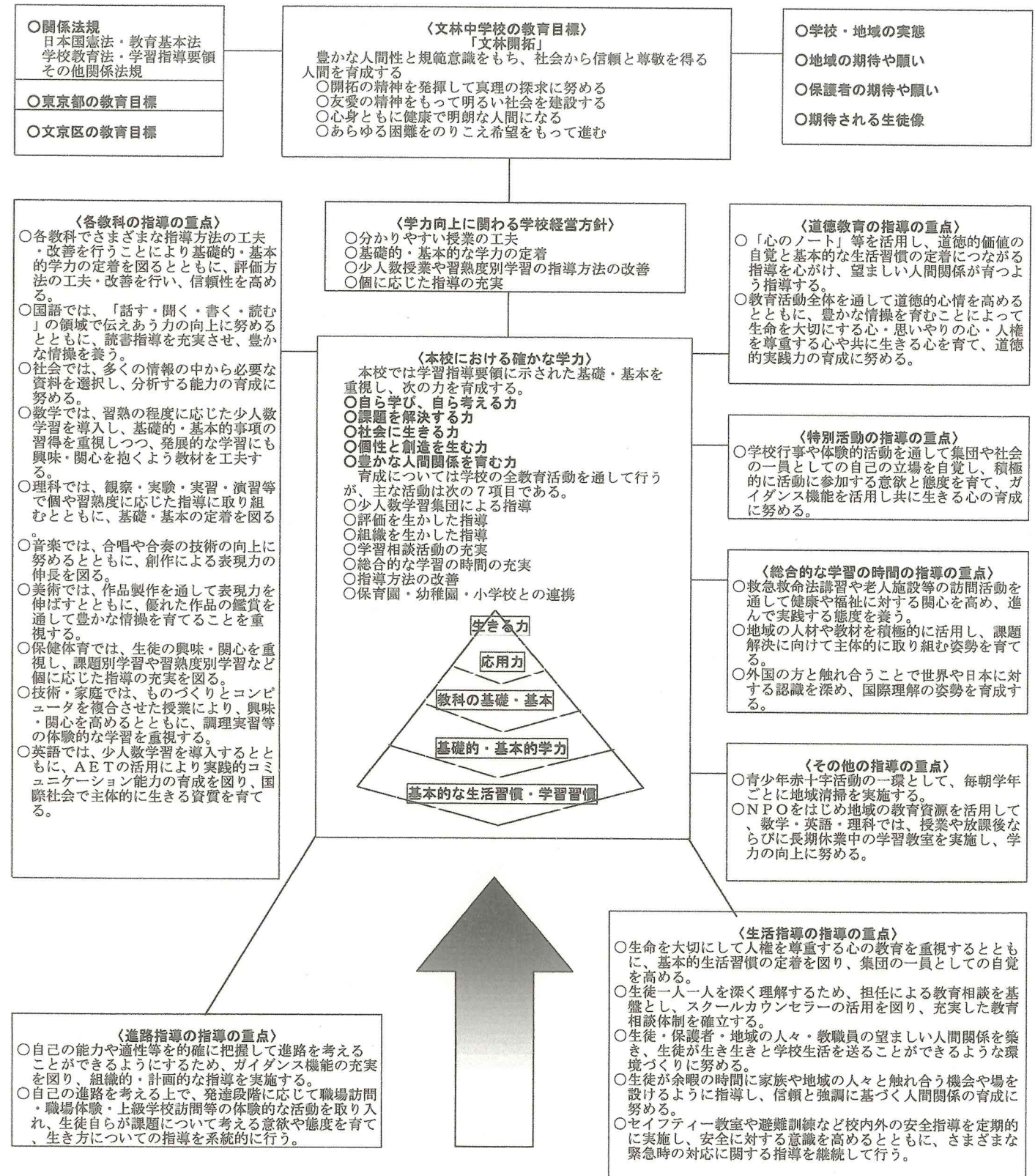
文京区立文林中学校

目 次

1. 学力向上を図るための全体計画	p 1
-------------------	-----

2. 各教科の授業改善推進プラン

国 語	p 2
社 会	p 3
数 学	p 4
理 科	p 6
英 語	p 7
音 楽	p 9
保健体育	p 10
技 術	p 11



本校の授業改善に向けた視点

指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内研究・研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
○基礎的・基本的な学力を定着させるために、小テストや反復練習を実施する。 ○ワークシートや視聴覚教材等、分かりやすい授業にするための教材を工夫する。 ○学習への興味・関心・意欲を喚起するため、観察・実験・調べ学習・体験的活動などを取り入れた学習機会を増やす。 ○少人数授業や習熟度別学習など、個に応じた指導を推進する。	○年間指導計画・評価計画に基づく実践と評価 ○授業時数の確保 ○授業参観や学校公開週間の充実 ○外部評価の実施とその活用 ○相談活動の充実 ○学習内容の定着を図る時間割編成の工夫 ○3年間を見通した総合的な学習の時間と進路学習	○組織的・計画的な研修計画の立案とその実施 ○保・幼・小・中一貫教育に向けた組織の構築 ○異校種間の教員交流と授業見学の実施 ○保・幼・小・中の連携における行事の推進 ○交流に基づく次年度への課題の整理と年間研修計画の作成 ○外部講師の活用 ○授業改善に向けた各教科の分析と改善策の推進	○指導と評価の一体化を目指す年間評価計画の作成とその実践 ○信頼性を高めるための評価基準、及び評価基準の見直し ○学力を高めるための多面的評価活動の工夫と実践 ○生徒・保護者に対し評価・評定の理解を深める説明や資料の工夫・改善 ○観点に適切した定期考査問題の作成	○家庭とは面談やたより等により連絡・相談機能を充実させ、基本的生活習慣・学習習慣の確立を図る。 ○地域の人材や外部の教育力を活用し、多様な生徒のニーズに対応できる教育活動の推進を図る。 ○保護者会の他、公開講座やセーフティー教室等で懇談会を設け、生徒の健全育成について問題を共有する。 ○学校運営連絡協議会の充実と外部評価の実施及び活用

教科	国語	担当者氏名	田邊 難波江
----	----	-------	--------

平成28年度 第1回 授業アンケートによる授業改善推進プランのまとめ

1 生徒の実態（生徒自身の授業への取り組みアンケートから）

1 学年

どの生徒も授業中に積極的に取り組み、よく考えようとしている。

授業の内容がわかっている生徒がほとんどである。

2 学年

国語が好きでない生徒の方が多く見られるが、授業に対しては積極的に取り組み、考えようとしている。

ほとんどの生徒が授業の内容を理解している。

3 学年

どの生徒も授業に積極的にとりくみ、よく考え、考えを深めようとしている。

おおむね授業の内容を理解している。

2 授業の課題（授業に対するアンケートの結果から）

1 学年

授業のはじめに目標が明確に示されていないと感じている生徒がいる。

授業の最後のふり返りが不十分だと感じている生徒がいる。

2 学年

授業の最後のふり返りが不十分だと感じている生徒がいる。

自分の考えを表現する機会が不十分だと感じている生徒がいる。

3 学年

授業のはじめの目標提示とふりかえりをしっかり行う必要がある。

3 これからの授業をどう工夫するか（改善する点・強化する点 など）

1 学年

漢字の読み書きや言葉の意味など基本的な事項の反復学習を行い、定着を図る。

授業のはじめの目標提示と終わりのふりかえりを目に見える形でわかりやすく行う。

2 学年

授業のはじめの目標提示と終わりのふりかえりをしっかり行い、学習内容の定着を図る。

課題学習を行い、学びあいや考えを表現する活動をもっと増やしていく。

3 学年

授業の初めの目標提示と終わりのふりかえりをしっかり行い、学習内容の定着を図る。

意見の発表や交流の機会を増やし、人の考えを聞くことから自分の考えが深まるような学習を行う。

教科	社会科	担当者氏名	武藤 章
----	-----	-------	------

平成28年度 第1回 授業アンケートによる授業改善推進プランのまとめ

1 生徒の実態（生徒自身の授業への取り組みアンケートから）

1 学年

どの生徒も興味・関心を持って授業に臨み、発言等も積極的である。

歴史的事象に関して、よく考えようとする姿勢も見られる

2 学年

多くの生徒が興味・関心を持って授業に臨み、発言等も積極的である。

苦手意識を持つ生徒も出てきてはいる。

3 学年

多くの生徒が興味・関心を持って授業に臨み、発言等も積極的である。

社会科の基礎的な事項が定着していない生徒もいる。

2 授業の課題（授業に対するアンケートの結果から）

1 学年

一斉授業で、教師と生徒の対話中心の授業になっている。

生徒が家庭でどんな学習をしていけばいいのか、わからない。

2 学年

一斉授業で、教師と生徒の対話中心の授業になっている。

深く考えさせる発問が少ない。

3 学年

一斉授業で、教師と生徒の対話中心の授業になっている。

学力定着の手段が手薄い。

3 これからの授業をどう工夫するか（改善する点・強化する点 など）

1 学年

生徒同士の話し合いや、調べ学習、その発表といった発展的な学習を取り入れる。

ワークを宿題にするなど、家庭での学習を習慣づける。

2 学年

生徒同士の話し合いや、調べ学習、その発表といった発展的な学習を取り入れる。

発問を工夫し、課題解決的な授業を展開する。

3 学年

生徒同士の話し合いや、調べ学習、その発表といった発展的な学習を取り入れる。

入試問題等を利用し、思考力・判断力の養成に努める。

教科	数学	担当者氏名	霜越 恒子
----	----	-------	-------

平成28年度 第1回 授業アンケートによる授業改善推進プランのまとめ

1 生徒の実態（生徒自身の授業への取り組みアンケートから）

1学年 4人

1, 3, 4, 7の項目で「どちらからといえば当てはまらない」や「当てはまらない」が各1人該当した。ほとんどの生徒は、授業の内容が分かり、他人の考えを取り入れ、自分の考えを広げ、将来役に立つ大切な教科と考えている。しかし、嫌いで、考えを深めることができず、積極的に取り組めない生徒がいる。

2学年 13人

1, 3, 4, 6, 7, 8の項目で「どちらからといえば当てはまらない」が4人、2人、1人、1人、2人、1人該当した。ほとんどの生徒は、将来役に立つ大切な教科と考えている。しかし、嫌いで、自分の考えを深めることができず、積極的に取り組めない生徒がいる。

3学年 6名

1の項目の「この教科の勉強は好きですか」で「どちらからといえば当てはまらない」が1人該当した。

2 授業の課題（授業に対するアンケートの結果から）

1学年 4人

10, 11の項目で「どちらからといえば当てはまらない」や「当てはまらない」が2人、1人該当した。授業の最後に、学習内容を振り返る活動を行い、大切なことをまとめ、確認をする。

2学年 13人

9, 10, 11, 12の項目で「どちらからといえば当てはまらない」や「当てはまらない」が3人、6人、5人、1人該当した。授業の最初に目標、最後に振り返ってまとめる活動をノートに書かせて確認をする。

3学年 6人

「どちらからといえば当てはまらない」や「当てはまらない」に該当する生徒はいなかった。10の項目では「当てはまる」や「どちらかといえば当てはまる」が各3人だったので、授業の最後に学習内容を振り返るとき、黒板に書いてまとめたり、自分で分かりやすくまとめたりする活動を取り入れる。

3 これからの授業をどう工夫するか（改善する点・強化する点 など）

1学年

計算コンテストなどを行い、基礎的・基本的な学力の定着を確認して必要に応じて練習問題を補充する。自分の考えをまとめ、伝える力を学び合いの中から身につけさせ、目標やまとめで確認をする。

2学年

目標やまとめの時間を確保し確認する。自力解決、学び合いの中で「正確に早く解く」から「正確に早く工夫して解く」を意識させ、どのように解いたかを説明させる場面を増やす。

3学年

計算コンテストなどを行い、基礎的・基本的な学力の定着を確認して必要に応じて練習問題を補充する。自分の考えをまとめ、伝える力を学び合いの中から身につけさせ、目標やまとめで確認をする。

教科	数学	担当者氏名	白 土 潤
----	----	-------	-------

平成28年度 第1回 授業アンケートによる授業改善推進プランのまとめ

1 生徒の実態（生徒自身の授業への取り組みアンケートから）

1 学年 5人

- ・ 大部分の生徒は、授業内容を把握し、理解できている。
- ・ 自分の考えを深められていない部分がある。
- ・ 内容は理解しつつも、考えを深めることができていない。

2 学年 14人

- ・ 90%以上の生徒が授業では集中してできており、自分の考えを深め、理解している。
- ・ 数学の好き、嫌いの差が激しく、学習内容の定着にも差がある。

3 学年 8名

- ・ たいへん意欲的な生徒が多いが、数学に対する意識に差もある。
- ・ 将来必要であると考えるが、広く応用していこうとは考えていない。

2 授業の課題（授業に対するアンケートの結果から）

1 学年 4人

- ・ 授業導入時の学習目標や明確でない。
- ・ 振り返り活動が不十分。

2 学年 14人

- ・ 授業導入時の学習目標や明確でない。
- ・ 自分の考えを表現する機会が少ない。

3 学年 8人

- ・ 授業導入時の学習目標や明確でない。
- ・ 学び合い活動の不足。

3 これからの授業をどう工夫するか（改善する点・強化する点 など）

※各学年共通の授業改善項目として電子黒板やデジタル教科書、投影機などのICT機器の利用

1 学年

- ・ 学習目標の明確化。
- ・ 授業の導入や最後のまとめの授業改善と振り返り時間の確保。

2 学年

- ・ 学習目標の明確化。
- ・ 授業での思考を充実させ、自分の考えを表現する機会を増やす。

3 学年

- ・ 学習目標の明確化。
- ・ 思考の充実、学び合い活動を通しての発表機会を増やし、数学的な考え方の共有。

教科	理科	担当者氏名	川島 紀子
----	----	-------	-------

平成28年度 第1回 授業アンケートによる授業改善推進プランのまとめ

1 生徒の実態（生徒自身の授業への取り組みアンケートから）

質問紙調査で「当てはまる」と「どちらかといえばあてはまる」と回答した生徒の割合を以下の表に示す。全学年共通して、生徒自身の理科の授業への取り組みはおおむね良好であると考えられる。

- 1 学年：実験・観察等では個に応じた指導を行うと、より積極的に取り組むことができる学習集団である。
 2 学年：意見交換や発表など、学び合い・高め合いのある学習形態に大きな力を発揮する学習集団である。
 3 学年：授業に対しての取り組みは非常に良いものの、理科に対して自信が持てない生徒がとて多い。

	1 学年	2 学年	3 学年
1 この教科の勉強は好きですか	89%	85%	88%
2 この教科の勉強は大切だと思いますか	100%	92%	88%
3 この教科の授業に積極的に取り組もうとしていますか	89%	96%	100%
4 この教科の授業で授業中によく考えようとしていますか	100%	97%	100%
5 この教科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思いますか	89%	82%	94%
6 この教科の授業では、他人の考えを取り入れ、自分の考えを広げたりすることができていると思いますか	78%	100%	94%
7 この教科の授業では、自分の考えを深めることができていると思いますか	89%	89%	100%
8 この教科の授業の内容はよく分かりますか	100%	100%	87%

2 授業の課題（授業に対するアンケートの結果から）

質問紙調査で「当てはまる」と「どちらかといえばあてはまる」と回答した生徒の割合を以下の表に示す。全学年共通して、1学期間授業者自身が意識して取り組んできた授業改善が反映されている結果となっているが、数字では表出されない課題が各学年共にあると考えている。

- 1 学年：学び合い・高め合いの学習場面で、多様な意見や発想が出にくいことが大きな課題である。
 2 学年：学力上位層と下位層の乖離が大きく、どの生徒の力も引き上げる一斉指導に改善が必要である。
 3 学年：1回の学習指導では思考や知識の定着が極めて難しく、繰り返し学習する場の設定が必要である。

	1 学年	2 学年	3 学年
9 この教科の授業では、授業のはじめに、目標（めあて・ねらい）が示されていたと思いますか	100%	100%	100%
10 この教科の授業では、授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか	100%	93%	88%
11 この教科の授業では、授業で扱うノートやプリント等に学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いていたと思いますか	89%	100%	100%
12 この教科の授業では、自分の考えを表現する機会が与えられていたと思いますか	88%	100%	94%
13 この教科の授業では、生徒の間で学び合う活動をよく行っていたと思いますか	100%	100%	100%

3 これからの授業をどう工夫するか（改善する点・強化する点 など）

全学年共に生徒自身の授業に対する取り組みの良さを生かし、学年の課題に応じた授業改善に積極的に取り組む。また、生徒への質問紙調査でいくつかの質問項目で「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」と回答した数名（1学年1～2名、2学年1～4名、3学年1～2名）の取り組みが改善するように、「だれ一人も置き去りにしない授業」「どの生徒も学ぶ充実感を味わえる授業」を目指した授業改善を行う。

【1 学年】

改善する点：多様なグループ学習の形態を取り入れ、刺激のある協同学習を取り入れる。

強化する点：生徒個々の課題を見極め、個に応じた指導に徹する。

【2 学年】

改善する点：学力上位層には、自分の学習に満足せずにより高みを目指せる発展的な内容の課題の設定を提示する。学力下位層には、理科の学習に対して自信が持てるように、授業プリントや実験レポートの添削を通じてきめ細かい指導を行う。

強化する点：協同学習で高め合うことができる学習集団の良さを生かし、より良い学習を皆で作上げる雰囲気醸成させていく。そのためには、夢中になって取り組むことができる教材の提供や授業者の発問の工夫が必須であるため、授業研究や教材研究により積極的に取り組む。

【3 学年】

改善する点：スモールステップで繰り返し学習する指導場面を増やし、理科の学習に自信を持たせる。

強化する点：実験・観察の考察を充実させるために、授業プリントや実験レポートの添削を通じてきめ細かい指導を行う。また、徹して褒めて伸ばす。

教科	英 語	担当者氏名	高草木 直子
----	-----	-------	--------

平成28年度 第1回 授業アンケートによる授業改善推進プランのまとめ

1 生徒の実態（生徒自身の授業への取り組みアンケートから）

1 学年

クラス（半分）全体としては意欲的に取り組んでおり、一定内容を理解している。
英語が好きではない、積極的に取り組もうとしていないと回答した生徒が1名いる。

2 学年

英語の勉強は大切であると感じ、積極的に取り組もうとしている生徒がほとんどである。
また全員が、授業の内容を「分かる」と回答している。

3 学年

英語の勉強は大切であると感じ、積極的に取り組もうとしている生徒がほとんどである。
英語が好きではない、積極的に取り組もうとしていないと回答した生徒が1名いる。

2 授業の課題（授業に対するアンケートの結果から）

1 学年

目標提示と学習内容を振り返りが行われていないと感じている生徒がいるので、一層分かりやすく行う必要がある。

2 学年

授業を分かると感じながらも成果に表れていない生徒がいるので、反復学習が足りていないと思われる。
授業の最後、また次の授業で学習内容を振り返る活動をしっかり行う必要がある。

3 学年

授業の最後に学習内容を振り返る活動をより一層明確に行う必要がある。

3 これからの授業をどう工夫するか（改善する点・強化する点 など）

1 学年

授業に意欲的に取り組めるよう、生徒を惹きつける導入を行う。
授業の目標提示と振り返りをしっかりと行う。

2 学年

授業内容の振り返りを反復して行う。生徒が意欲的に取り組めるように、ワークシートを工夫する。様々な習熟度の生徒が協同的に取り組める、チャレンジングな課題も取り入れる。

3 学年

授業に意欲的に取り組めるよう、生徒を惹きつける導入を行う。授業の目標提示と振り返りをしっかりと行う。簡潔な説明を心がける。

教科	英語科	担当者氏名	鶴山 裕有未
----	-----	-------	--------

平成28年度 第1回 授業アンケートによる授業改善推進プランのまとめ

1 生徒の実態（生徒自身の授業への取り組みアンケートから）

1 学年

- ・教科の勉強の大切さを理解し、授業に積極的に取り組むことができている。
- ・「自分の考えを深めることができる」という質問に対し、どちらかといえば当てはまらないと答えた生徒が2名いる。

2 学年

- ・ほとんどの生徒が、授業の中で他人の考えを取り入れ、自分の考えを広げることができると答えた。
- 「この教科の勉強が好きですか」という質問に対し、どちらかというとき当てはまらない、もしくは当てはまらないと答えた生徒が全体の40%にのぼった。

3 学年

- ・クラス全体として、教科の勉強の大切さを理解し、授業に積極的に取り組むことができている。

2 授業の課題（授業に対するアンケートの結果から）

1 学年

- ・目標提示と学習内容を振り返りが行われていないと感じている生徒がいるので、一層分かりやすく行う。

2 学年

- ・目標提示と学習内容を振り返りが行われていないと感じている生徒がいるので、一層分かりやすく行う。
- ・反復学習をする際のノートやプリントの活用方法についての指導を行う必要がある。

3 学年

- ・授業の最後に学習内容を振り返る活動をより一層明確に行う。

3 これからの授業をどう工夫するか（改善する点・強化する点 など）

1 学年

- ・授業に意欲的に取り組めるよう、生徒を惹きつける導入を行う。
- ・目標提示と学習内容の振り返りを確実に行う。

2 学年

- ・生徒を惹きつける導入やワークシートの工夫を行う。
- ・目標の提示と学習内容の振り返りを確実に行う。

3 学年

- ・生徒を惹きつける導入やワークシートの工夫を行う。
- ・一人ひとりが問題と向き合う時間を十分に確保し、考える力を伸ばす。チャレンジ問題等を取り入れる。
- ・目標の提示と学習内容の振り返りを確実に行う。

教科	音楽	担当者氏名	増本 千扶美
----	----	-------	--------

平成28年度 第1回 授業アンケートによる授業改善推進プランのまとめ

1 生徒の実態（生徒自身の授業への取り組みアンケートから）

1 学年

- ・全体的に意欲的に取り組んでいる。
- ・音楽の生涯学習における役割があまり理解されていない

2 学年

- ・だいたいの生徒が意欲的に取り組んでいるが、そうでない生徒数が高学年よりパーセンテージが多い。
- ・音楽の生涯学習における役割があまり理解されていない

3 学年

- ・ほぼ、積極的に取り組んでいる。
- ・生徒間の学び合い、自分の考えの表現活動がないという解答があった。

2 授業の課題（授業に対するアンケートの結果から）

1 学年

- ・思考力を深める活動が少ない
- ・最後に授業を振り返る時間が少ない

2 学年

- ・協同学習の場が少ない
- ・目標提示、振り返りの活動の時間が少ない。

3 学年

- ・学び合いの活動、考えを表現する活動が少ない
- ・学習の目標、目当ての表示とまとめ、振り返りの時間が少ない。

3 これからの授業をどう工夫するか（改善する点・強化する点 など）

3 学年通して、①目標提示の不明確さ ②振り返り、まとめの時間の少なさ ③自己の思考力の表現活動の少なさ、が上げられる。授業の流れの中で、指示しているが、生徒側にとっては、ねらいの確認や目標がはっきり受け止められてない状況なのが現状である。今後は、目標やねらいがはっきり認識できるような指示の出し方、を工夫してゆく。また、音楽は行事との兼ね合いもあり、1時間の授業の中で行う内容が多く、時間におわれがちであるのが現状である。授業の最後のまとめの時間の確保するために、更にポイントを絞り、時間配分を考慮した表現活動を目指す。また3年間を通じて、音楽が豊かな人生に役立つ方法の1つであることを理解させ、そのような姿勢を身につけさせてゆきたい。

教科	保健体育	担当者氏名	望月 和弘
----	------	-------	-------

平成28年度 第1回 授業アンケートによる授業改善推進プランのまとめ

1 生徒の実態（生徒自身の授業への取り組みアンケートから）

<1学年>授業に積極的に取り組み、考えようとする姿勢は身についている。『他人の考えを取り入れ、自分の考えを広げることができる。（項目6）』、『自分の考えを深めることができる。（項目7）』では、当てはまると回答した生徒が少ない。

*指示されたことは、確実に行える集団である。種目によって、教え合いの場面も見えてきた。

<2学年>授業に積極的に取り組む姿勢は身についている。『この教科がすき（項目1）』、『他人の考えを取り入れ、自分の考えを広げることができる。（項目6）』では、「どちらかといえば当てはまらない」と回答した生徒が20%近くいた。

*授業に対して、意欲的に取り組んでいる。運動が苦手な生徒と、得意な生徒の差が大きい。

<3学年>授業に積極的に取り組み、考えようとする姿勢は身についている。『他人の考えを取り入れ、自分の考えを広げることができる。（項目6）』では、当てはまると回答した生徒が少ない。

*授業に対して、意欲的に取り組んでいる。教え合いの活動が見られるが、考え・工夫することにつながっていない。

2 授業の課題（授業に対するアンケートの結果から）

アンケートの回答では、全項目に於いて、学年が上がるにつれ、「当てはまる」、「どちらかという当てはまる」に回答する割合が増えている。特に、1年生では、『授業のはじめに、目標が示されている。（項目9）』『授業の最後に、学習内容を振り返る活動を行っていた。（項目10）』の回答が、8割に満たない。

<1年生・2年生>授業のねらいが、明確に理解できていないため、考えを深めることにつながっていない。ねらいを明確にすること、考える活動場面を増やすことが課題。

<3学年>授業のねらいを理解できているので、授業の振り返りや、まとめにしっかりと取り組むこと。ならいに基づいて、教え合いの活動を増やすことが課題。

3 これからの授業をどう工夫するか（改善する点・強化する点 など）

<1学年>

改善 ねらいを明確にするために、提示の仕方・学習カードの工夫に取り組む。

強化 学習カードの使い方を工夫し、ねらいの確認や知識の獲得ができるようなものにする。

<2学年>

改善 ねらいを明確にするために、提示の仕方・学習カードの工夫に取り組む。

強化 グループ活動を数多く取り入れ、教え合い活動を活発にする中で、考える場面を増やし、積極的にアドバイスをを行う。

<3学年>

改善 学習の振り返りを徹底するために、授業でのまとめの時間の確保と、学習カード記入の方法をより明確なものにする。

強化 グループ学習におけるグループの作り方を工夫し、教え合い活動を活発にし、自分たちで考え活動できるように、指導・助言を工夫する。

教科	技術	担当者氏名	森下 法樹
----	----	-------	-------

平成28年度 第1回 授業アンケートによる授業改善推進プランのまとめ

1 生徒の実態（生徒自身の授業への取り組みアンケートから）

1 学年

どの生徒も授業中に積極的に取り組み、よく考えようとしている。授業の内容がわかっている生徒がほとんどである。自分の考えを広げたりすることができないと感じている生徒がいる。

2 学年

技術が好きでない生徒が半数見られるが、作業に対してはとても積極的に取り組んでいる。ほとんどの生徒が授業の内容を理解している。

3 学年

どの生徒も授業に積極的にとりくみ、よく考え、考えを深めようとしている。
おおむね授業の内容を理解している。

2 授業の課題（授業に対するアンケートの結果から）

1 学年

目標の提示とまとめを書くことは定着している。
授業の最後のふり返りと生徒の間で学び合う活動が不十分だと感じている生徒がいる。

2 学年

授業の最後のふり返りが、不十分だと感じている生徒が、半数以上いる。
自分の考えを表現する機会が不十分だと感じている生徒がいる。

3 学年

授業の最後のふり返りと生徒の間で学び合う活動が不十分だと感じている生徒がいる。

3 これからの授業をどう工夫するか（改善する点・強化する点 など）

1 学年

作品製作の中で、知識・技能をきちんと活用する力の育成をする。

2 学年

社会の中での技術の果たす役割について考えさせ、学びの意欲を高める工夫をする。
ルールや時間を守り丁寧に取り組む姿勢、家庭学習の習慣化(復習)

3 学年

作品製作の中で、知識・技能をきちんと活用する力の育成をする。
基礎的な事項の定着と工夫し想像する力の育成をする。